



## バスラ日誌(2月3日)

1 昨日サマワにおいて、MND(SE)師団長から、第8次群8名の方々が表彰を受けた。師団内各部隊では、0.1%に満たない受賞率であるので、大変名誉なことであると思う。第8次群の成果を代表して受賞された皆様には、心からおめでとうございますと申し上げたい。私も師団長一行様に随行し、初めてサマワに行くことができた。なつかしい顔、顔、顔。いい年をしていながら、シャイな私は、あまり大袈裟には表現できなかったが、とてもうれしく、とてもリラックスできた。(お風呂に入れなかったのは残念だけど。)

予定到着時刻を20分程過ぎて、師団長の車列が到着した。万全の受入れ態勢をもって、師団長表彰の行事は進んだが、第3ゲートではひと騒動があった。師団長警護員3名が弾倉を装着したまま中に入ろうとして止められている。「通常どこのベースに入る場合にも警護員はロードのままで。なんとか説明してくれ。」と、副官が走ってきた。ゲートに行くと、絶対に入れませんと頑張る自衛隊側。私の責任において入れさせるか、判断を仰ぐか迷ったが、ゲート警備責任を負う方々を無視できないため後者を選択した。結局、群長の許可を仰いでいる途中で、「式典が始まった。」と告げると、副官がアンロードを指示し、表彰式場まで案内することができた。

警備中隊の方々の真剣さには頭が下がる思いであるし、また師団長を警護する側の真剣さにも理解できるものがある。次の来訪の際には問題が生じないよう調整しようと思う。ただ、1つだけ疑問に思ったのは、弾倉を装着したまま入ることよりも、師団長の側を離れないことのほうが重要ではないのかということである???

おかげで、せっかくのティーセレモニーも見ることができず、こちらで副師団長が机の上に写真を飾って自慢している着物ガール(最初は芸者ガールと言っていたらしい。)にも会えなかった。サマワの皆さんありがとうございました。重たいダンボールを持ってヘリを降りると、ヘリポートには誰もいなかった。昨日のバスラ日誌には、班長がいないと作業が大変だと書いてあった。・・私は作業員か?(班長、「作業」ではなく「業務」です。(班員一同))

2 1900現在雷雨。バスラ4名、ダンボール運びで腰痛以外、極めて健康。